

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076700196
法人名	医療法人 弘医会
事業所名	グループホーム弘医荘 (ユニット名 I)
所在地	福岡県朝倉郡筑前町高上962
自己評価作成日	平成27年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成27年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年12月に開設。木のぬくもりがあり、天窓などが設けられ全体が明るく、利用者が過ごしやすい空間造りになっている。周辺は田園風景にて散歩が楽しめる。当法人の(デイケア、託児所、有料老人ホーム)との交流を取り入れている。陶芸教室は今年で12年目。押し花教室は3年目を迎え、利用者のいきいきとした表情が見られ、月1回のバスハイク、お茶会も楽しみにされている。アウトドア用のテーブルと椅子も購入しウッドデッキや中庭などで花を眺めながらのんびりと過ごされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後、3年ほど前に建て替えられた新しいホームは、明るく木のぬくもりを感じられる気持ちの良い施設である。気候の良い季節には、利用者と一緒に外でバーベキューや食事、お茶会が出来るようテーブルが用意され、日常的に楽しみを持って過ごすことが出来るよう工夫されている。管理者、職員の雰囲気も明るく、会話の中で利用者の笑顔を引き出している。地域住民ボランティアの協力で押し花教室や陶芸教室を開催し、沢山の作品が飾られ利用者一人一人の個性が感じられるアットホームな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当グループホームの理念に基づき、意識しながら日々の介護に取り組んでいる。普段から目に入る所に掲げ、ミーティング等で再確認を行い、共有し実践につなげている。	ホーム独自の理念を掲げ、食堂やトイレに掲示し職員が何時でも確認できるようになっている。管理者、職員共に理念を理解し、『自分のお父さん、お母さんに対する気持ち』と同じ気持ちでケアに取り組んでいけるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや地域の行事に参加し、他事業所との交流も行い、コミュニケーションを図っている。	地区の夏祭りに利用者は職員と一緒にいって出店を楽しんだり、いきいきサロン参加の声かけをして貰ったり、幼稚園や託児所の子供たちが訪問したりして、地域の一員として日常的に交流を持つことができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を運営推進会議で行い、他事業所や家族の方にも参加してもらい、認知症の方の気持ちや行動に対して理解して頂いた。キャラバンメイトを増やすことが出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度始めにテーマを決め、利用者家族、行政職員、民生委員、区長、相談員、居宅師長が参加し、そこでの意見を職員で確認し、介護の質向上に努めている。	2ヶ月に1回、会議を開催し地域包括支援センター、民生委員、区長、家族等の参加の下、活動報告や入居状況報告、行政に運営相談をしたりして意見を頂きサービスの向上に活かすことが出来るよう努めている。認知症養成サポート講座の提案があり、家族と法人事業所内で劇を実施し認知症について勉強した事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席していただいております。福祉課、包括支援センター等、常日頃から気軽に相談できる体制にある。行政の方からもアドバイスがある。	成年後見制度について家族から相談を受け説明し、行政に繋いだりと、日頃から地域包括支援センターの担当者と相談しやすい関係づくりが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中はしておらず、防犯の為に夜間のみに行っている。もし外出された時は、声かけしたり、一緒に散歩へ出る様にしている。夜間のベッド柵は一本にして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修年間計画があり、年1回は法人の研修に参加し職員全員が身体拘束をしないケアについて学ぶ機会がある。ベッド柵使用が必要な利用者については、本人、家族に同意を得て転落、転倒防止に努めている。日中、玄関は開錠されている。危険防止のため、食堂、居室の窓は20cm程度開くようになっている。	日中は出来るだけ職員の見守りの中で開放的な生活が送れるようなケアの工夫について、検討する機会を持つことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や資料などで理解を深めるようにし、ミーティングで話し合いも行っている。職員の疲労、ストレスが利用者に影響していないかの把握、周辺徹底を行っている。毎日その日の対応はどうだったのか、個人で反省を行い、職員間で注意しあえる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の中で、成年後見人制度について、地域包括支援センターの方よりDVD、パンフレットで研修を行い、制度への理解を深めている。	管理者は契約時に本人、家族へ制度についての説明を行っている。研修年間計画の中で、法人内の研修を受け、全職員が制度について学ぶ機会がある。現在、制度の利用者、また相談を受け申請中の利用者も居られ、制度を活用できる支援体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をされる前に、相談や見学に来て頂き、家族、本人の意向を聞き、十分な説明を行い、不安や疑問等を納得していただいたうえで、契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を大切に、不満や苦情を訴えられる雰囲気作りと、話をゆっくり傾聴する時間がもてる様努力している。玄関に意見箱を設置している。	利用者からは、日常的に会話の中から意見や要望を聞き取っている。家族会はないが、面会時に家族から話を聞き取るよう努めている。家族への細かい報告に努めていたつもりだが、家族にとっては負担になっていたことを知り、ケアについて話し合う機会を設けるなど運営に反映されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月一回実施。連絡ノートを活用し、日常運営に職員の意見や思いをプラスして運営につなげている。	職員は管理者と話しやすい関係にあり、気が付いたことは何でも相談出来ている。また、法人内での異動については、入ってきた職員は利用者に紹介し早く馴染みの関係が出来るよう努めている。異動や退職した職員は、特に挨拶はしないが、他の職員の対応で利用者が混乱につながるようなことは無い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体病院の基本に合わせ、向上心をもって、資格取得すると手当て等の支給がある。勤務表になるべく希望を取り入れ作成してもらっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	18才～60才までの性別に関係なく採用。61才以降再雇用がある。(定期的に面接を行い、自己実現に向けて意見を聴取している)	採用にあたって性別や年齢等を理由に採用対象から外すことは無い。職員は希望休、勤務時間内での休憩も取ることができ、生き生きと仕事をすることができている。法人内の異動時も本人に説明があり承諾した上で安心して異動することが出来ている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	病院管理者より定期的説明会実施	法人内に居宅委員会があり、グループホーム、訪問看護、訪問介護等、各事業所全体の研修が年1回開催され、管理者と職員全員が参加し人権教育について学ぶことが出来ている。研修に参加できない職員は伝達研修にて学び啓発活動に取り組むことが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の意志が大事であり、声かけしている。地域公的機関、部会出席案内状等を吟味し、研修している。又、母体である病院での勉強会等へ参加を促し、スキルアップに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会、筑前町、あらゆる訪問等を受け入れ、見学を通じ、協力体制をとっている。部会や母体である病院との連携をとりながら、勉強会への参加、接遇マナー及びサービスの質の向上に向けて取り組み、勉強中である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの相談、受付から利用に至ることが多いので、なるべく本人にも一緒に来て頂き、不安なこと、要望等、さまざまな思いを傾聴し、受け止める努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの理念、現状を説明し、家族の思いを受け止める努力をしている。利用開始前に本人に会いに行くなど関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人の居宅支援事業所等があり、担当者との話し合い、相談を行い最良の方向性を検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の人権を尊重し、人生の先輩である事を常に念頭において接するよう心がけている。又、本人の得意分野を見出し生かしていける様、支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活全般、情報を共有、共感し安心感を与える様努力し、家族と信頼関係を保ち、一緒に本人を支えていく関係を築く様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了解を得て、夏祭り等参加したり、なじみの場所(美容院等)へ外出されたりと一人一人の生活習慣を尊重している。電話や面会も快く受けている。	利用者一人ひとりにこだわりの場所があり、「行きつけの郵便局にハガキを出しに行きたい」、「行きつけの電気店で電池を買いたい」と希望があり、職員と一緒に出掛け馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、友人、自宅近所の方、教え子などの訪問があり、気持ちよく馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方が自分の時間も大切にしながら他利用者との会話も楽しまれている。その良い関係がスムーズにいき、孤立することない様、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調悪化などで入院による退居が殆んどである。入院されても面会に行ったりと馴染みの関係が途切れない様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族に希望を尋ねたり、日常生活での変化もある為、会話や表情から本人の思いを把握し、家族と相談しながら本人がどのように過ごしたいかを検討している。	難聴のため、意志疎通が難しい場合は、答え易い問いかけを心がけたり、動きや表情から思いを汲み取るようにしている。得られた情報は連絡ノートに記載し全職員間で共有できるようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの本人の生活スタイルを出きるだけ維持できる様に、コミュニケーションを多くとりながら、情報の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録やスタッフ間での情報を共有し、日常生活や心身の状態の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意見を聞き、ミーティング等で話し合い、情報を共有し、個々の状態や希望を具体的に、スタッフ全員が介護計画に携わるようにして作成している。	事前に本人・家族・かかりつけ医から情報や意見を収集し、月2回のミーティングのプラン作成に取り入れている。ソファからの立上がり方が困難な方に、車イス用のクッションを使うことで立上がり方が自立できた等、日々の生活の中から職員の気付きを組んでいる。勤務上ミーティングに参加できない職員も意見や提案をノートに記入するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録に、気付いたことを記入し、その時々で対応したり、申し送りノートを用い、スタッフ間でチェックしながら実践や介護計画の見直し、評価を実施している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人の病院が隣接しており、家族の方の状況に合わせ、受診などの必要な支援は柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署は避難訓練の実施、警察署には安否の見守りなどをお願いをしている。又、地域の方への支援の声かけを行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他病院にかかりつけ医がある方は、家族にお願いし、当法人の医療機関がかかりつけ医の方は2～4週間に1回定期受診を行なっている。異常時などはその都度受診し、家族に報告している。訪問診療や往診にも来てもらっている。	母体が病院ということで入居を決めた方もいるが、本人や家族の思いで以前のかかりつけ医の継続の方もいる。他科受診の情報は受診ノートに記入し、職員が共有できるようにしている。毎日、母体病院の看護師長から電話や訪問があり、利用者の小さな体調の変化に気付くことができる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当病院の看護師長が、毎日グループホームに来られ、日常の健康管理の指導や助言、対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に伴い、環境の変化による不穏が見られたりする為、家族とも相談しながら面会に行き、病棟との情報交換で状態を把握し、早期退院できる様、努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と共に、家族、スタッフと今後の変化に備えての話し合い、連絡をとっている。	ホームでは看取りはなく、母体の病院と連携をとるようにしている。他の病院をかかりつけにしているも、緊急時には昼夜を問わず診察を受けられることを入居時に説明し職員も周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	DVD観賞や院内勉強会に参加している。緊急マニュアルを作成し、その状態に応じて対応できる様努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難時のマニュアル作成、院内合同訓練にも参加している。又、昼、夜設定での訓練を行っている。地域の消防団に参加して頂くこともある。	スプリンクラーが設置され、ホーム単独で夜間想定を含め年2回の消防訓練を実施している。隣接有料老人ホーム、デイケア、病棟での合同訓練も年2回実施している。防災意識が高く、職員による避難場所への誘導も徹底している。地元の消防団にも参加してもらい指導を受けている。緊急時の持ち出し袋を用意しているが、直ぐに持ち出せる状態とは言いがたい。	災害対策については意識的に取り組みがなされているところなので、緊急時の持ち出し袋についても、有事に備え、内容や保管場所について検討する機会を持つことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、表情や言動を観察しながら平等に本人を傷つけない様な丁寧な言葉かけや対応を心がけている。	利用者一人ひとりのこれまでの生活を尊重し、呼称も好まれる呼び方にしている。職員の不適切な行動を見かけた場合は、場所を変え即時に注意・指導している。申し送りやミーティングは個人が限定されることがないよう配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを傾聴し、自己決定できる様「まつ介護」を心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ぬり絵をされたり、新聞、雑誌を読まれたりと一人一人のペースで自由に過ごしてもらっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の散髪を利用されたり、ボランティアの方によるマニキュアや、外出時には化粧をして楽しんでもらっている。自分で化粧する方もいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度の調理には利用者の好み等を献立に取り入れ、野菜の皮むきや食器の片付けを手伝ってもらっている。	毎日の食事は病院より提供されたものを利用者に合わせた食事形態で職員と和やかな雰囲気の中で一緒に食べている。食事で気になることは1、2ヶ月に1回、給食委員で量や味付けについて意見を出し、改善している。また、月に1回利用者に希望の献立を聞いて職員の手作りによる食事会を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は病院の管理栄養士が作成したバランスの取れた献立で提供し、週一回はホームで調理している。水分はこまめに提供し、いつでも飲めるようにキーパーを準備している。スタッフ全員が、把握できる様に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い、できる所は自分でしていただき、口腔内の清潔維持に努めている。週一回ポリデント洗浄を行っている。年一回歯科医による口腔チェックもしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、時間を決めトイレ介助を行っている。	紙パンツを使用されていた方の誘導時間を変えて普通の下着へと改善された事例があり、排泄の記録は職員が共有している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の記録を参考にし、排便コントロールに努めている。腹部マッサージを行ったり、水分補給や、ホーム内を歩行してもらっている。必要であれば下剤を使用している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重しつつ、清潔が保てる様支援している。皮膚観察も同時に行っている。	季節にあった生姜湯やゆず湯を実施し、ゆったりと入浴を楽しんでもらえるように個別入浴や希望に応じ同性介助を行っている。浴槽がゆったりと大きい為に、毎回の湯は、消毒管理を行い、清潔保持に努めている。入浴拒否のある方には、気持ちが向くように足浴などから始めるなどしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで自室で休まれたり自由だが、昼夜逆転しない様、なるべく日中は活動を促し、生活リズムを整える様努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを作成し、変更などがあれば、受診ノートに記入し、情報を共有している。勉強会等に参加し内服の安全に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や雑誌を読みたい方には提供したり、洗濯物たたみ、テーブル拭き、他、朝の会体操等で、気分転換ややりがいのある生活が送れる様支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスハイクを計画し、月に一度は外に出かけられる機会を作り、散歩や外でのお茶会、家族と外出等できる様支援している。	外出先を事前に聞き、全員参加できるような計画を立てている。個別で、図書館に行きたい方には職員が同行し読書を楽しんだり、また、時計修理や馴染みの店まで行くこともある。ハガキの投函先に郵便局を指定される方にも支援を行うなど細かな支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、気兼ねなく利用できる。写真付きの弘医荘だよりも発行している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓も大きく外の景色を十分楽しむ事も出来、季節感も感じられる。又、自分達で花や野菜を植え、居心地が良く、安心して過ごして頂ける様、工夫している。	ホームで行う、押し花教室や陶芸教室で作った作品が随所に並び、天窓から差し込む光がやわらかな空間を作っている。夏にはゴーヤで緑のカーテンを作り、みんなでその収穫を楽しんだりしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVあるスペースと、ソファに座り、ゆっくり話しのできるスペースがある。ウッドデッキにはベンチを置き、花を植え、外でお茶をして過ごして頂ける工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用されていた家具、生活用品を持ち込まれ、写真や花、陶芸作品などを飾られ、それぞれ暖かみのある部屋になっている。	自宅にいるような空間作りができるように馴染みのものを持ち込んで、その方の今までの生活を感じられるような居室作りとなっている。転落の危険がある方には不安がないようにベットマットで就寝してもらう等の安心できる支援を行っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、各個室、共同場所など分かりやすく表記している。車イス移動もスムーズに行える安全な設計になっており、自由に動かれている。		